



みどりの食料システム戦略 温室効果ガス削減の「見える化」

見つけて！温室効果ガス削減の「見える化」ラベル



農業から排出される温室効果ガスを削減するために、さまざまな栽培努力をしている生産者がいます。しかし、そのことを消費者にわかりやすく伝える方法がこれまでありませんでした。そこで「みどりの食料システム戦略」の一環として、温室効果ガス削減の「見える化」の実証販売が

スタートしました。

温室効果ガスを減らす栽培方法をとった農産物には、削減率を星の数で表示(見える化)したマークを付けて販売します。これにより、消費者が環境に良い農産物を見つけ、購入することができます。



令和4年度は、トマト、キュウリ、「見える化」を実施。今後は、ナス、ほうれん草などの野

みどりの食料システム戦略

菜や、リンゴ、みかん、ぶどうなどの果物、茶などで「見える化」された品目が増える予定です。あなたも「温室効果ガスを減らす買い物」をしてみませんか。ぜひお店で見える化のラベルを探してみてください。



「見える化」ラベルの最新情報はこちら



温室効果ガスを減らす栽培方法の例

水田の中干し期間の延長

水田の土壌からは温室効果ガスのメタンが発生し、これは我が国のメタン排出量の4割にあたる。一時的に水田から水を抜く「中干し」期間を7日間延長することで、メタンの排出量を最大3割減らすことができる。



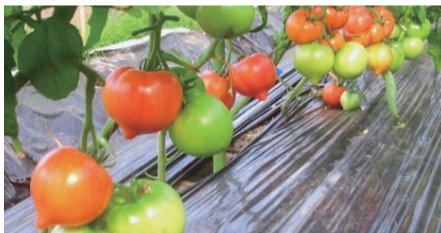
バイオ炭の施用

バイオ炭とは、木などのバイオマスを酸素の少ない状態で、350度以上で加熱してできた炭をいう。難分解性のバイオ炭を農地にまくことで、炭素成分が長期間分解されずに、バイオ炭として地中に貯留することができる。



化石燃料の使用削減

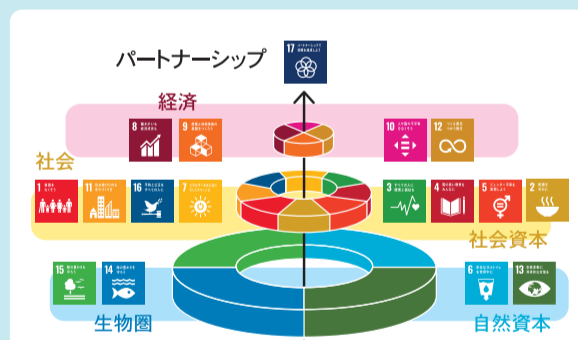
栽培の工夫で冬期の暖房利用を減らす、化石燃料の代わりに木質バイオマスチップを活用する、化石燃料を使用して作られる化学肥料・化学農薬を低減する、などの取り組みにより温室効果ガスの排出を削減できる。



みどりの食料システム戦略

SDGs を実現する消費

世界が抱えるさまざまな問題を解決し、より良い未来をつくるために国連で定められたSDGs(持続可能な開発目標)。目標達成のために「買い物」を通じてできることがあります。日々の「買い物」をSDGsの視点から考えてみませんか。



出典:Stockholm Resilience Centre (Illustrated by Johan Rockström and Pavan Sukhdev, 2016)に加筆
SDGsの17の目標は三つの層に分けられる。しっかりとした「環境(生物圏・自然資本)」の土台が「社会」や「経済」の発展を支えている。



環境に配慮することが、社会や経済の持続可能な発展にもつながるのね。

環境に配慮した栽培方法の農業
効率良い農業生産を行う上で、農薬や化学肥料は便利な資材であるものの、不適切な使用により環境に負荷をかけています。また、農業は食料を得る重要な手段ですが、温室効果ガスも排出しています。施設栽培の暖房や農業機械は化石燃料を使用するので、二酸化炭素を発生させます。こういった課題に気づき、環境に配慮した栽培に取り組み生産者がいます。化学肥料や農薬を減らす、暖房の燃料を石油から再生可能エネルギーに替え

て温室効果ガスの排出を減らす、といった工夫です。
同じ種類の野菜や果物などが複数あっても、どれを選ぶかがあります。そんなとき、何を基準に選んでいますか。味は変わらないのに、見た目や形の整った「見た目だけ」の商品を選ぶときの基準
消費者が買ってくれる見たいの良い農産物をつくるため、生産者はたくさんのお金をかけています。



消費は、望む未来への投票になるのね

自分で考えて選ぶことが必要なんだね

見た目重視より持続性重視

環境に配慮して栽培された果物や野菜は、傷ありや色・形が不揃いになりがちです。見た目ではなく環境に良いものを選ぶ消費者が増えれば、生産者の環境に配慮した農業生産を応援するとともに、規格外の農作物も有効に使用され、食品ロスの解消につながります。

農林水産省は、食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立に向け、「みどりの食料システム戦略」を推進しています。



形が不揃いな野菜(この写真は有機野菜)